

# 浦添市沖縄都市モノレール沿線地区における公民連携(PPP)公園まちづくり推進セミナー

## 1. 実施概要

浦添市では、沖縄都市モノレール延長整備（2019年10月1日延長区間開業）に伴い新設される経塚駅及び浦添前田駅を含む、沖縄都市モノレールの沿線地区において、地域の課題解決やにぎわいづくりなどの地域の魅力向上を図り、地域のニーズに対応したまちづくりを実現するため、経塚公園を核としたまちづくり（パークマネジメント、公園活用ビジネス等）を市民協働及び公民連携（PPP）を進めるための取り組みを進めているところ。

この取り組みの一環として、浦添市は、公園活用事業及びパークマネジメントを含むエリアマネジメントなどに対して事業者からご意見、ご提案を頂くとともに、PPP事業への参画を検討いただくため、公民連携部会の開催を予定している。

本セミナーでは、公園まちづくりに関する基調講演、先進事例紹介と併せて、浦添市より、公民連携(PPP)に関する取組及び公民連携部会やサウンディング公募に関する説明、並びに提案者の発表を行い、今後開催する公民連携部会に向けて、多様な分野の技術及び当該事業への意欲並びに経験を持ちあわせ事業者が同部会に参画するきっかけとした。

当日は、民間事業者や各種団体などから89名が参加した。

## 2. 実施日程及び場所

日程：令和元年9月4日(水)

時間：13:30 - 16:30

会場：浦添市産業振興センター・結の街3F 大研修室（沖縄県浦添市勢理客4丁目13-1）

## 3. 主なプログラム

### 【第I部】

#### 1. 浦添市挨拶

浦添市都市建設部美らまち推進課 課長 安里 宗健

#### 2. 講演

##### ①基調講演

公民連携による公園と周辺地域のエリアマネジメント

沖縄の景観まちづくりと産業や文化の創出提案「琉球庭園都市構想」

パークマネジメントと次世代公園研究会プロデューサー

新産業文化創出研究所 所長 廣常 啓一 氏

##### ②事例紹介

「SHARE GREEN 南青山」でのNTT都市開発(株)の取組みについて

ーリノベーションによる都心のオープンスペース活用提案ー ほか

NTT アーバンソリューションズ株式会社街づくり推進部  
プロジェクト推進部門長  
エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社開発本部 副本部長  
駒井 厚生 氏

3. 浦添市モノレール沿線地区における公園まちづくりの方向性について  
浦添市都市建設部美らまち推進課 係長 比嘉 亨

<休 憩>

#### 【第Ⅱ部】

#### 4. 公園まちづくりのアイデア等発表・意見交換

- ①株式会社森下建築総研 代表取締役・一級建築士 森下 修 氏
- ②KAZE MO NIWA 代表 多田 弘 氏 庭デザイン・ランドスケープ・植物空間演出
- ③Ryuzo 琉球造形研究 代表(彫刻家) 濱元 朝和 氏
- ④K's coffee 代表 廣田 薫 氏
- ⑤アフアフ健康ウォーク 代表儀間ゆかり氏(廣常氏が資料説明)

## 4. 内容

### 【第Ⅰ部】

#### ◆浦添市挨拶

浦添市都市建設部美らまち推進課 課長 安里 宗健

浦添市では、沖縄都市モノレールの延長区間の開業に伴い、浦添前田駅、経塚駅周辺のまちづくりを進めている。

特に浦添市の新たな玄関口となる経塚駅においては、駅前広場のように広がる経塚公園が地域や来訪者にとってより魅力的な公園にできるように地域、行政、企業が協働した Park-PFI の活用に向けて活動を行っている。浦添市公園まちづくり研究会の市民協働部会ではワークショップを経て市民の意見がまとめており、公民連携部会では企業とのマッチングによる新たな価値創出の機会を設けようとしているところであり、公民連携部会のスタートとなる公民連携(PPP)公園まちづくり推進セミナーを開催する。

#### ◆基調講演

#### 公民連携による公園と周辺地域のエリアマネジメント

#### 沖縄の景観まちづくりと産業や文化の創出提案 「琉球庭園都市構想」

株式会社新産業文化創出研究所 代表取締役 廣常 啓一 氏

都市公園法改正や PPP の拡大に伴い、Park-PFI など公園の積極的な活用が進んでいる。しかし、民間事業者が、公園活用ビジネスに参入するためには、公園に事業市場性があることや、指定管理業務など予算が確保されている受託業務などが前提となり、民間による公園の選別が始まっている。PPP は、

維持費軽減など公園課題解決だけが目的ではなく、地域の経営や課題解決のために、公共ストックの一つとなる公園を民間(住民や地権者、民間事業者など)と連携し活用することである。複数機能の活用には、異分野連携や新たな事業開発(コミュニティビジネスほか)の創出が求められている。

講演では、そうした公園まちづくりの考え方や共創プラットフォームの作り方とともに、これまでなかった「琉球庭園都市」という概念を活用した景観まちづくり、文化や産業(ビジネス)の創造について紹介する。

## 1. 公民連携 PPP の背景と手法

- ・ 全国の課題を追いかける沖縄の 2025 年問題

最も低かった沖縄が 21% を超えたことで、全都道府県で超高齢社会

昭和 47 年以降の 40 年強で、都市公園の面積は 5 倍以上に増えているがその整備や維持管理の予算は、比例した伸び率とはなっていない。

公園の「面的拡大」「量的拡大」が優先され「質的充実」が疎かに・・・

地域課題解決の為の公園が、変化してきた地域ニーズに対応できていない上に、利用者の不在

## 2. 都市公園法の改正と公民連携 PPP によるパークマネジメント(Park-PFI)

- ・ 国内のパークマネジメント、パーク PFI の動き

2006 年 5 月 26 日「民でできるものは民へ」の掛け声のもと成立した「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」に基づき実施されることとなった市場化テスト⇒公園の指定管理者制度

- ・ 2017 年 6 月 都市公園法等 都市緑地法の一部改正

- 保育所、高齢者福祉施設など通所型社会福祉施設、教養施設の占有が可能に。
- 飲食店等の収益施設の設置(パーク PFI)に関し設置期間が 10 年~20 年に/建蔽率が 2% から 12% に/条件として、園路、広場等の公園施設の整備を一体的に行い、収益の一部を公園整備への還元
- 民間事業者によるパークマネジメントの実施
- 公園運営に関する「公園協議会」の設置、地域にあったローカルルールの制定と運用/協議会は公園管理者、学識経験者、商工関係団体、住民団体、公園利用の利便の向上に資する活動を行う者などによって構成し民間事業者の公園での取り組みや地域との調整を行う
- 大規模公園施設の PFI 事業による設置管理許可期間の延伸
  - ・ 10 年から 30 年に
  - ・ 主にプールや水族館、運動施設等の大規模公園施設
- 公募設置管理制度に基づき選定された者は、
  - ・ 自転車駐車場、レンタサイクルポートほか
  - ・ 地域の催しに関する情報を提供するための看板、広告塔
  - ・ 公園内イベントの開催情報及び協賛企業の広告塔を占用物件(利便増進施設)として設置できる  
→ 地域住民の利便の増進、事業者の収益向上による優良投資促進
- 都市公園の維持修繕に関する技術的基準の策定
  - ・ 遊具の安全確保、公園施設の安全点検に関する指針など。

### 3. 公園を核としたまちづくりとエリアマネジメント

- 魅力的な公園は、まちのブランド価値を上げる。
- 優れた公園が、地域のブランド価値に影響を与えてきた。つまり地域の課題解決や価値創造のために、公園整備や運営、経営を行うという公園活用の地域経営戦略を持つことが重要。
- 地域価値を求める主体（地域の住民や地権者、民間事業者、行政）と、地域価値を高める能力や資源を持つ主体（専門家、民間事業者、周辺地権者や住民、公園活用団体）が、共創すること、また、民間事業者が地域価値の恩恵を受ける主体になることも必要。
- 公園の管理運営から地域経営(エリアマネジメント)に。パーク PFI やパークマネジメントの次に必要なのが、公園など公共ストック(地域の経営資産)を活用した、地域課題解決のまちづくり!
- 公園の課題(管理コストや整備費の軽減)を民間と解決することだけが目的ではない。
- 地域の課題解決や、地域ブランディングのために公園を活用することが本質で、そのための技術やアイデア、資金を持つ民間と連携する。(健康促進や観光振興、産業振興、コミュニティ醸成活動、子育て支援などによる地域価値や不動産価値の向上や持続性のためのブランド化)
- パークマネジメントへの民間参入による公園の事業性向上の検討レベルからエリアマネジメントのために、公園を活用したビジネスモデルや民間の参入メリット、事業性の向上、効率性の向上を検討する。
- そのため異分野からの参入業種や人材、異分野が連携することにより、1者では、出来ないことをカバーする。その中で、新業態や新技術、新たな実施主体(コミュニティビジネスやベンチャー含む)の創出、育成も必要になる。

### 4. 公園まちづくり研究会と公民連携部会

- 公園活用と経営の新たな主体の創出の研究会  
検討ワーキンググループを複数作り、連携促進を図ることでプロジェクト化を図っていく。
- サウンディングや研究会で集まるテナント・人の情報をまちに提供

### 5. 経塚公園から広域の浦添市公園まちづくりへ

#### ●都市公園法の改正と公民連携による公園まちづくり

- 歴史的資源、景観との組み合わせ
- 公園内のショップ&カフェと  
琉球ガーデンファニチャーのある公園
- 町の小さな庭園ポイント
- 家と街の間、緑のある風景、都市緑化とエリマネ

### 6. 琉球庭園都市構想の(研究会ワーキングへの)提案について

- 琉球庭園都市構想（コンセプトのたたき台案とて）  
琉球庭園都市構想は、都市緑化や景観形成の推進、また、それに伴うライフスタイルや市民の地域活動、産業や文化の創出や再生などの振興を、沖縄の魅力的な熱帯植物の在来植生や土木建築資材、歴史文化に基づく意匠や景観に相互に刺激を与えあい、新たな価値を創造するものである。

沖縄の庭園の基礎は、琉球王国時代に日本庭園と中国庭園がミックスされ、地域の亜熱帯植生や材料、気候や文化により独特の庭園デザインと庭園文化として形成されてきた。ただし、その学問体系は確立、また、考え方の継続や学術的保存も行われていない。その研究者も少なく、庭園文化としての継承や発展、拡大が困難な状態となっている。

公園や緑地など公共空間や街並み形成への継承、建築などと一体となった景観まちづくりなどへの活用、観光産業や庭園関連製品(植栽や建材、関連建築物や観賞商品)など産業や関連文化の創出や振興、人材育成なども未着手である。

そこで、伝統的な現地資源や琉球文化により琉球庭園の概念を再構築し、公園や緑地、景観などのランドスケープを核としたまちづくりと、それを活用する市民の活動と関連した新たなデザインや音楽、文化芸術、食やイベント、関連グッズなどを融合することで、新たにライフスタイルの創造に加え、関連する産業や文化の振興に結び付けることで、ブランディングされた「まちづくり」や「シビックプライドの醸成」まで発展させていこうとするものである。

そのために古琉球の歴史と文化を基盤にしつつも、多様な知を持つ主体やクリエイターの参画と連携により、新たな感性、技術、機能、デザインが融合し確立する「琉球庭園都市論」なるものを手法として景観づくり、まちづくり、産業や文化創出を実現する「ネオ・トラディショナル」という発想を打ち出す。

これは伝統的と考えられる庭園や沖縄文化に、まちづくりなどの市民活動やビジネス、地方行政などの地域活動に関わるに沖縄県内(浦添市内)の方々だけでなく、県外の人や知(アイデアやデザインなどのクリエイティブ力、マーケティング力、資金力)を浦添市に導き、共創することで革新的なイノベーションを起こす人の輪を作っていく(関係人口の拡大)活動。つまり、これまでの文化の再構築により新たな伝統をつくるという運動でもある。

浦添市は琉球王都発祥の地であり、浦添グスクや尚寧王の道などの物理的、及び精神的な象徴が集積する。首里城と浦添グスクを結ぶ一帯は、モノレールの延伸コース、経塚公園、前田公園とも隣接しており、「ウラオソイ文化交流ゾーン」とも重なる。琉球庭園都市構想はこの一帯を発祥とすることが最もふさわしいと言え、ストーリー性からも、このエリア以外から開始することは考えにくい。

浦添市を琉球庭園都市構想の社会実験拠点地域として設定をすることで、まち全体が、琉球庭園都市の市民協働、公民連携のリビングラボと考えることもできる。また、こうした知的対流拠点の開発運営とともにテストベット、ショールーム、情報発信のリアルフィールドとしても育てていくことをパークマネジメントやエリアマネジメントの機能に組み込むことも必要である。公園のみならず、周辺地域も琉球庭園を醸し出すイメージを作り上げていくことによって、地域住民や観光客にとって魅力的なまちづくりを目指す。経塚公園の整備や活用の社会実験に当てはめ、「琉球ガーデンショー(仮称)」のようなイベントの実施、そして県外での開催による産業振興、更に「全国都市緑化フェア」や国際園芸博などの招致や、花緑、庭園などの国際コンクールや会議などの企画活動にも結び付けていく。国際的なガーデンショーやフラワーショー、途上国との関係も作りやすく、JICA 国際センターなどとの連携も効果的に進めることが出来るはずである。

活動を通して浦添の活動フィールドと世界を結び付けること沖縄の文化、産業として国内外に琉球庭園に関わる産業と文化を、そのブランドとともに水平展開、国際展開していく戦略に結び付ける。

こうした考え方の可能性を検証するため、「琉球庭園都市研究会」として、2年前から沖縄県内外の賛

同者による交流会や視察会などを実施した。浦添市で実施した地域事業者やリエイターへのヒアリング、市民協働の公園まちづくりセミナー、東京で実施した公民連携の意見交換会などにおいても、好意的な反応が多く、関わりを求めたり、その実現を求める要求があった。

また、琉球庭園都市が、産業振興や地域の不動産価値向上につながる可能性について海外事例などを用いて示したところ、イメージが膨らみ、公園やまちづくりに関心を持たなかった層や産業界からも、好意的な反応が寄せられていた。

## ◆事例紹介

### 「SHARE GREEN 南青山」でのNTT都市開発(株)の取組みについて ーリノベーションによる都心のオープンスペース活用提案ー ほか

NTTアーバンソリューションズ株式会社街づくり推進部 プロジェクト推進部門長

エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社開発本部 副本部長

駒井 厚生 氏

#### 1. 経緯とねらい

##### (1) 敷地概要

所在地 : 東京都港区南青山一丁目 12-32

敷地面積 : 約 16500 m<sup>2</sup> (うち今回利活用 : 約 9,500 m<sup>2</sup>)

既存建物 : 約 1,500 m<sup>2</sup>事務所×2 棟、約 200 m<sup>2</sup>倉庫、約 300 m<sup>2</sup>倉庫

※これまで、都市公園区域の制限により大規模な開発が行えず、駐車場や倉庫等による利用が長期間続いていたが、敷地のポテンシャルを上げるような利活用方法の検討を開始した。

##### (2) SHARE GREEN 南青山のねらい

###### ①地域に開かれた賑わいの創出

- ・エリア認知度向上、本格開発への期待感醸成

###### ②稼ぐオープンスペース(広場)の実証実験

- ・オープンスペースで収益を上げて管理費を賄うモデルの実験的試行
- ・緑の中で働くクリエイティブオフィス事業や広場と一体となった商業店舗など

##### (目指す収益モデル)

本施設の目指すオープンスペース自給自足モデル：オープンスペースを施設の「主」と捉え、誰でも使える開かれた空間でありながら、オープンスペースの固都税・維持管理に加え、地域貢献活動等の費用も含め、自身の収益を賄う。

#### 2. 施設コンセプト、プラン

##### ①コンセプト

カフェやクリエイティブを刺激するショップ、オフィスなどライフスタイルに密着したコンテンツが集まり、さらに緑溢れ広々としたガーデンが全体をひとつの公園のように調和するまち

## ②プラン

<p>CAFÉ 棟：約 300 m<sup>2</sup></p>	<p>倉庫を飲食店舗にコンバージョン。広々とした倉庫空間は、普段はカフェの客席として利用されるが、屋外スペースと一体での利用が可能なイベントスペースという一面も持つ。建築基準法や保健所からの要件の中、倉庫の雰囲気や柱梁を極力残し、建物を構成している柱梁を強調した。広場の世界観を店舗でも表現し、内外のアートワークがアクセントとなっている。</p> <p>（工夫点）イベントスペースを使っていない間は、カフェの客席とすることで、カフェの売上UP（歩合賃料UP）と日常清掃をカフェにて実施（管理費DOWN）するメリットを享受できる。</p>
<p>SHOP 棟：約 200 m<sup>2</sup></p>	<p>ランドスケープデザインを担当した企業によるグリーンショップ。事務所・倉庫を物販店舗にコンバージョンを行った。商品は店内にとどまらず施設全体に散りばめられ、施設の景観を演出。圧倒的な緑量の確保が隣接する青山公園との一体感を実現している。</p> <p>（工夫点）ショップの商品を施設全体に置くことで緑量を確保、施設内の植栽を日々無償で剪定・管理</p>
<p>オフィス棟：約 1,500 m<sup>2</sup>×2棟</p>	<p>無機質だったプレハブのような2棟の建物を、クリエイターやスタートアップのためのスモールオフィスとしてリノベーション。広場部分を広大な共用部と捉え、新しい働き方を提案。ラウンジ機能や会議、セミナールームを設け、小規模企業にとって、ビジネスしやすい環境を計画している。1階は階高が高いことから天井をなくし、可能な限り大空間を確保している。</p>
<p>広場：約 2,700 m<sup>2</sup></p>	<p>1. 公園のような広場 閉じられていた隣接公園との柵を開放し、動線を作ったことで緑が繋がった公園のような広場に樹種を周辺と揃えることで、敷地の大きさ以上の緑量の確保、没入感を実現した。日常の様々な利用を想定し、大きく4つのゾーンに分け、その時のシーンに合わせ、思い思いに過ごせる場を提供。</p> <p>2. SNS・メディア 計画当初からメディア内覧会やインフルエンサー、イベント向けのオープニングパーティを企画し、戦略的な展開を構築した。 雑誌やテレビのような媒体に取り上げられやすい要素も取り入れ、継続的なSNSでの発信により、常に人々に最新の情報を届けている。</p>

## ③プロジェクトメンバー

事業主／開発企画：NTT 都市開発

プロデュース／カフェ出店：TRANSIT GENERAL OFFICE INC.

全体設計監理／プロパティマネジメント：REALGATE

ランドスケープデザイン/ショップ出店：SOLSO

### 3. まとめ（成功のポイントと今後の課題・展開）

#### （1）成功ポイント

- ・広場（オープンスペース）を施設の核とし、計画当初からイベント誘致を想定したプランニング（広場のゾーニング、電源・排水・搬入動線・耐荷重・メンテナンス性）を行った点。
- ・企画のスタート時にプロジェクトメンバー（カフェ・ショップ入居者、運営会社）を選定し、共創する開発プロセスにより、それぞれのシナジーやメリットを最大化しつつ自らの施設という想いで作り上げた点。
- ・立地を活かしたターゲットに向けたキャッチーなデザイン、使われ方、SNSでの発信を考慮した計画とし、広告費をほぼかけずに集客することに成功した点。

#### （2）今後の課題・展開

- ・開業より時間が経つにつれて話題性、新鮮味が薄れる中、現状の集客、イベント誘致状況を持続することが必要。⇒話題性等を長期間継続することは難しいため、より地域に根差していくことが必要。

### 4. NTT アーバンソリューションズの目指す街づくりについて

個性豊かな地域社会が主役となるこれからの街づくりの実現に向け、NTT 都市開発とNTT ファシリティーズを両輪とするNTT アーバンソリューションズグループを創設し、2019年7月1日より事業を開始した。

NTT アーバンソリューションズが目指す街づくりは、4つのバリュー（コミュニティ、イノベーション、ダイバーシティ、レジリエンス）を支援することにより、地域社会の経済発展と社会的問題の解決を両立させ、快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることができる人間中心の社会である Society5.0 とSDGsの実現に貢献する。

## ◆浦添市モノレール沿線地区における公園まちづくりの方向性について

浦添市都市建設部美らまち推進課 係長 比嘉 亨

浦添市の直近の動きとしては、10月1日に沖縄都市モノレール延長区間が開業予定であり、平成30年3月には西海岸道路の開通、また沖縄県、那覇市、浦添市が琉球王国時代から続く沖縄の伝統的な琉球料理や泡盛、また芸能などのストーリーと構成文化財が日本遺産に認定された。地域資源は、カーミー周辺エリア、港川ステイツタウンエリア、浦添商業エリア、西海岸エリアに様々ある。

モノレール沿線の街づくりとしては、「まちを繋ぐことで、地域全体の魅力向上を図り、浦添ならではのまちづくりを目指す」ことをコンセプトとして、浦添前田駅と経塚駅軸として連携していく。経塚公園では、パークマネジメントを行って地域の魅力を向上させていく。

経塚公園は、平成25年度に3回の地域ワークショップを行い整備計画図作成した。今後、Park-PFIを導入するにあたっては、浦添市公園まちづくり研究会を立ち上げており、公民連携部会と市民協働部

会の2つの部会で検討を進める。市民協働部会は既にスタートし、今後、公民連携部会を立ち上げる。市としては、同研究会を都市公園法に基づく公園協議会に移行していきたいと考えている。公民連携部会とサウンディング公募については、9月中旬頃にHPに実施要領を掲載する予定である。

浦添前田駅の賑わい交流施設は、「にぎわいの創出と拡がりに向けた浦添市観光の核となる交流拠点施設の形成」の基本理念のもと整備を進めている。施設計画は、浦添市が求める機能としては観光機能、交通結節機能を必須機能として民間企業に提案してもらいたい。スケジュールは、今年度中に事業者選定を行う予定であり、公募条件はHPに掲載予定である。

## 【第Ⅱ部】

### ◆公園まちづくりのアイデア等発表・意見交換

#### ①株式会社森下建築総研 代表取締役・一級建築士 森下 修 氏

設計事務所をやっている。

滋賀県草津市の琵琶湖の南側に位置する草津川の付け替えにより生まれた空地进行を公園として再生し、その敷地内に商業施設を建てるプロジェクトである。

当初の条件は、建ぺい率 600 m<sup>2</sup>以下で 3 つのテナントが入り、スケジュールも1年半でタイトだった。

草津まちづくり株式会社（市と地元企業から出資される第3セクター）が建設。

計画は、村のような雰囲気ができるように 3 つのテナントを分棟にした。テナントは、地元で評判のいいレストランの分店、全国展開されているホットヨガ、全国展開されているが形態を変えたイタリアンレストランである。

施設計画をする際には、以前の川の分断を公園として人が集まる場所にどう変化させていくかが課題であった。そのため、賑わい施設、ランドマークとなる施設を計画することを提案した。

私自身、ランドマークというのは歴史的に深みを持ったままで人々が経験あるいは体験した形で記憶にインプットされているため、ランドマークとして語られ、新しいランドマークとしてまちの中に取り入れられる事ができたらまた人が集まるのではないかと考えている。

施工スケジュールがタイトであったため、小さい材料を寄せ集めて組み合わせて建築することを考えた。

地域を分断していた川であったが、単なる建物ではなく、人にイベント体験してもらおう経験してもらう場所になることによって単に短期的な話ではなく継続的にいきたいと思う環境を目指している。

何か役に立てることがありましたらまたよろしくおねがいします。

#### ②KAZE MO NIWA 代表 多田 弘 氏 庭デザイン・ランドスケープ・植物空間演出

庭デザインをやっている。

沖縄の持つ風景とポテンシャルブランド力、他にはない沖縄独自の風景沖縄のオリジナルのブランド力という話をする。

- ・沖縄は、狭い地域の中で固有種が残っており珍しい。この特殊な地域ができたということを生かしたく、周知していくためにもワークショップやイベントを開催している。

- ・私が参考としている明治神宮の森は、樹木や地域のことを徹底的に調べて計画的に植えられているた

め、人の手が入らなくても自然更新されて森が持続している。

・私は、沖縄の特殊な植生を持った樹木を人が手を抜いてもどんどんきれいになっていく場所を作れば、世界が憧れる風景ブランドになると思う。

### ③Ryuzo 琉球造形研究 代表（彫刻家） 濱元 朝和 氏

彫刻家をやっています。

急速に都市化が進んでいる沖縄に危機感を感じているため、文化財の等の修復及び風景なのでローカルな視点で話します。

私の考える核となる視点は3点あります。

1つ目は浦添の街、浦添市民2つ目は地域の独自性として、琉球王国発祥の地という歴史的ストーリー性伊祖城跡や、ヨードレーなどに見られる石造文化3つ目は、共感性として、3世代が集う場所、集う空間づくりである。

この3つの要素を取り入れたコンセプトが、未来へつなぐ石像美であり、浦添市民が誇れる公園である。沖縄には琉球王国時代からオリジナルな石像美があります。ランドスケープデザインに取り込むことによって、浦添市の歴史や、背景、琉球王国発祥の地として、独自性と未来志向の空間づくりを目指すことで、市民の誇り、国内外からの観光客からの魅力あふれる景観になると考える。

沖縄の原風景を作り上げることによって、年配の方には懐かしさ、若い世代には地元の文化を知るための場、小さい子供には記憶を重ね根付かせていく風景となる空間をつくり、良い環境を作ることで、地元コミュニティを作り、沖縄の独自性を保ちつつ、美意識をつなげていく場所づくりをしていきたいと思っている。

### ④K's coffee 代表 廣田 薫 氏

浦添市城間において、自家焙煎珈琲の販売と喫茶店を営んでおり、キッズルームを完備しております。

当初は、小さなお子さんをお連れのお客さまもゆっくりとコーヒーを楽しんでいただけるようなスペースをとるという思いで作りましたが、最近はお母さま方が自身の専門知識や特技を生かしてワークショップを開催しています。

ワークショップは、写真のデコレーションアルバムや英語遊び教室などを行っている。お母さま方のスキルは非常に持っていますが、フルタイムで働くことが厳しい人たちにご利用してもらおうようになってきている。キッズルームを設けたことによってお店の方でも随分客層が広がりましたし、お客さま同士の交流も増えた。

子供を遊ばせるだけの利用ではなく、子育て世代のお母さん方をターゲットにしたり、いろいろなスキルや技術知識を持ったお母さんたちのスキルを活かせるようなワークショップスペース、キッズルームを兼ねたカフェもあれば公園に行く楽しみもさらに増えるのではないかなと思っている。

### ⑤アフアフ健康ウォーク 代表 儀間 ゆかり氏（廣常氏説明）

ウォーキングマップを作って活動している市民団体の方である。

ウォーキングサークルを結成し、サークルの活動の場所がほしいということとウォーキングの終わったあとに食事会や交流会を行いたいので近所にカフェを出してもらいたい要望がある。



## ◆意見・質問

### ①沖縄 IT イノベーション戦略センター

浦添大公園が、大きな遊具が使用禁止になって使えない状態になっている。

私の主観では、浦添の中で一番有名な観光施設は浦添大公園だと思っており、遊びに来る客の半分以上が中国人であるためインバウンドで有名な観光施設だと思う。

今後整備する前田公園や経塚公園と動線をつなぐようにすれば誘客に繋がるのではないかと。また、市民にも使ってもらえるように、磯や城間までをシェアサイクルでつなぐと住民も利用しやすくなる。

(廣常氏)

浦添大公園までのつながりが重要だと思っている。今回、公園を核にしたまちづくりを目指しているので、シェアサイクル、シェアサイクルするための無線インフラを引くことを協力する企業などと連携していく可能性もあると思うので、ワーキングなどを設立して実現のきっかけ作りをしてほしい。

### ②浦添市都市計画課

観光客が多くて、地元住民が使えないこともあるので、その辺を踏まえてのマネジメントをしていく必要がある。

適材適所の賑わいを創出していかないと観光公害のような新たな問題が生まれるので、その辺りも踏まえて考える必要がある。

### ③沖縄美ら島財団

1. Park-PFI 制度を活用して事業者提案を求める整備範囲はどこで新規施設を求める要件は何か。
2. 建築面積と土地使用料について聞きたい。
3. 全体の維持管理は、どのような制度を使うのか。
4. 前田公園の整備予定及びプランニングイメージを教えてください。

(浦添市)

整備範囲等の内容については、市民や事業者などの研究会を立ち上げて決めていきたい。市民と事業者のバランスを取りながらまとめていきたい。

Park-PFI の公募の諸条件などは、研究会から公的な協議会にして議論していきたい。

建築面積は、第 2 種低層地域であるため制限がかかるが、必要に応じて建てられる範囲を広げてもらう。前田公園は、用地取得の段階にあり具体的な日程は確定していない状況である。